

飛騨法人会だより

No.241
2026

令和8年1月1日 第241号

発行所 高山市花里町3 (公社)飛騨法人会 発行人 山本 善隆／編集人 住 宏夫

ウェブサイト <https://hida-hojinkai.com/>
メールアドレス hidahojn@siren.ocn.ne.jp

TEL 0577-34-2201
FAX 0577-33-1093

新春

目次



■ 山本会長 年頭のごあいさつ	2
■ 名古屋国税局 課税第二部長 年頭の御挨拶	3
■ 署長さん訪問記 新春よもやま話	4～7
■ 令和7年度 合同納税表彰式	8～9
・財務大臣表彰 ・名古屋国税局長表彰 ・高山税務署長表彰 ・飛騨税務推進協議会長表彰	
■ 午年生まれ 今年の抱負	10～11
■ 休憩室……『地域とともに歩む挑戦の物語』	12～13
■ 事業所訪問……細江土建株式会社	14～15
■ とんなんしいぺい(支部短編ニュース)	16～17
■ 法人会の活動報告	18
■ 県下法人会女性部会連絡協議会・県下法人会青年部会連絡協議会	19
■ 青年部会だより・女性部会だより	20～21
■ 読者の窓	23
■ 税に関する絵はがきコンクール入賞作品・編集後記	24



— 下呂温泉合掌村 冬のライトアップ — 下呂市森



年頭のごあいさつ

(公社)飛驒法人会 会長

山本 善隆

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、飛驒法人会会員の皆様はもとより、地域の皆様方に温かいご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございました。

さて、我が国の経済状況は依然として不透明な要因に左右されやすい状態にあり、我が国を取り巻く安全保障環境はこれまでにない厳しさを増しています。

この数年で、通信手段やAIが恐るべき進歩を遂げているにも関わらず、対国となりますと、糸電話の如く意思疎通ができない若しくはあえてしようとしないう今日の世界情勢を大変憂いております。

しかし、私たちは前に進まなければなりません。そして愛する郷土をより豊かにして子や孫たちに継承したいという思いは、多くの皆様共通の願いであろうと思います。

新しい年を迎え、私たちは時代に則した新たな挑戦の年ととらえ、柔軟かつ創造的に対応してまいりたいと思っております。

どうか引き続きご支援賜りますことをお願い申し上げますと共に、お健やかですばらしい一年になりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

謹
賀
新
年



(公社)飛驒法人会

金山支部長 山口 英徳

下呂支部長 滝 康洋

下呂北支部長 島 秀太郎

高山南支部長 長瀬 雅彦

高山支部長 林 誠

古川支部長 渡邊 久憲

神岡支部長 亀谷 豊

女性部会長 佛坂 尚子

青年部会連絡協議会長 田中 直樹



年頭の御挨拶

名古屋国税局 課税第二部長

嶋 橋 和 夫

令和8年の年頭に当たり、公益社団法人飛驒法人会の皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。
会員の皆様には、平素から税務行政につきまして深い御理解と格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

公益社団法人飛驒法人会におかれましては、税のオピニオンリーダーとして、「租税教室」や「税に関する絵はがきコンクール」といった税の啓発活動のほか、地域社会への貢献活動を実施していただいております。

私どもにとりましても、皆様のこうした活動は、大変心強いものであり、会長をはじめ、役員の皆様並びに会員の皆様の日頃の御尽力に対しまして、心から敬意を表する次第であります。

昨年は、食料品をはじめとする様々な物価上昇への対応やアメリカとの関税交渉など、国内外の経済情勢に大きな関心が寄せられた一年でしたが、大阪・関西万博の開催や日経平均株価が史上最高値を更新するなど、国内経済に明るい動きも見られました。

このような中、新しく迎える年が、会員の皆様にとって充実した年となりますことを祈念いたしますとともに、公益社団法人飛驒法人会が引き続き魅力ある事業活動を展開され、会員企業と地域社会の発展に一層の貢献をされますことを御期待申し上げます。

私どもといたしましては、本年も引き続き、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という使命を果たすために、グローバル化やデジタル化の進展等の経済社会の変化に柔軟に対応し、様々な課題に的確に対応していくことが重要であると考えております。

国税庁が推進する「税務行政のDX(デジタル・トランスフォーメーション)」を更に前に進めるために、「納税者の利便性の向上」、「課税・徴収事務の効率化・高度化」に取り組むとともに、法人会をはじめとする関係民間団体の皆様や関係省庁とも連携を図りながら、「事業者のデジタル化促進」にも取り組み、社会全体のDX推進に貢献してまいりたいと考えております。

特に、源泉所得税に係るキャッシュレス納付の利用拡大に引き続き努めてまいりますので、法人会の皆様には、キャッシュレス納付の御利用のほか、周知・広報に御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年も、法人会の皆様と十分に意思疎通を図りながら、信頼関係をより深いものとし、これらの取組を進めてまいりたいと考えておりますので、一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たりまして、公益社団法人飛驒法人会の更なる御発展と、会員の皆様の御健勝並びに事業のますますの御繁栄を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。

署長さん
訪問記

新春よもやま話



高山税務署長
松田 淳一 氏

ききて 飛騨法人会会長 山本 善隆
広報委員長 住 宏夫
広報委員 長瀬 栄二郎
広報委員 水口 邦博
女性部会広報委員 鍋島 正子

—— 明けましておめでとうございます。

本日は「新春よもやま話」と題しまして、署長さんにいろいろとお話をお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

署長 明けましておめでとうございます。

昨年7月に高山署に着任して半年がたちますが、旧年中は法人会の皆様に大変お世話になりました。ありがとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

—— 署長さんのご出身地を教えてください。

署長 私は温泉と観光のまち、静岡県熱海市の出身です。現在は名古屋に自宅があります。

—— これまでのご経歴を教えてください。

署長 直前は名古屋国税局企画課長を務めておりました。振り返ると、昭和63年6月に富士税務署資産課税部門を振り出しに、主に資産課税系統の業務に従事してきました。平成

20年7月から2年間名古屋国税不服審判所国税審査官を務め、最近では高松局国税訟務官や名古屋国税局課税第一部資産評価官、国税訟務官室主任国税訟務官など、調査以外の仕事にも携わってきました。

—— 特に印象に残っているお仕事はありますか。

署長 これまでの業務を振り返ると、資産課税調査とそれに関する事務が中心で、その分野に自分の情熱を注いできたと思います。ここで話しできる印象に残っている仕事ですと、先に申し上げた国税不服審判所と高松局・名古屋局の国税訟務官室での勤務となるでしょうか。この二つは「審判する側」と「審判される側」という、同じ訟務関係の仕事でも立場が全く異なる点が非常に印象的でした。

「審判する側」としては、国税不服審判所の法規審査部門で裁判官出身の審判官の補佐役として勤務しました。仕事の内容を一言でいえば、「税務行政内部における公正な第三者的

機関として、納税者の正当な権利利益の救済を図ること」です。国税に関する処分に不服がある納税者の申立てを審査し、裁決を行うという重要な役割を担っていました。その後、「審判される側」として国税訟務官室で国税訟務官として勤務し、国の代理として国税に関する訴訟に対応しました。納税者が裁判を提起した際、国は被告となるわけですが、国の主張を法務局の法務部付検事とともに整理し、裁判所に提出する答弁書や準備書面等を作成するなど、国の「被告代理人」としての職務を行っていました。税務訴訟はテレビドラマのような対面式ではなく、証人尋問などを除き基本的には書面主義で審理が行われます。

このように、「行政内部で判断を下す機関」と「司法の場で被告代理人として主張・立証を行う部署」の両方を経験したことは、私にとっては大変貴重でした。審判する側から審判される側へ立場が変わり、「被告」と呼ばれる経験を通じて、自分の考え方や視点が大きく変わったと感じます。

また、国税訟務官・主任訟務官としては、税法という分野における法律の解釈や適用について、裁判を通じて明確化していくという、その後の税務行政に少なからず影響を与える仕事を行ったことで、常に緊張感を持った張りつめた中で仕事をしていたように思います。

裁判での勝訴判決を得るため、時には縁起を担ぐ習慣もありました。例えば、「スルメ」を「あたりめ」と言い換えるように、「乾杯」は「完敗」と音が同じため、「完勝」と言い換えるなど、



言葉に縁起を担いでいました。判決当日には「勝つ」にちなんで「とんかつ」や「カツカレー」、受験生御用達の「キットカット」（きっと勝つ）を食べることもありました。判決が続くときは、2週間で3回も「カツ尽くし」になり、さすがに食傷気味になりましたね(笑)。

—— 高山に赴任されて半年が経ちましたが、街の印象はいかがですか。

署長 高山税務署の勤務は今回が2度目です。平成23年7月から1年間、資産課税部門の統括官として勤務していました。久しぶりに高山に戻ってまず驚いたのは、駅前を中心に街並みがとてもきれいになっていたことです。新しいホテルも増えていますが、元々の街の美観を損なわず、むしろ洗練された印象を受けました。

また、特急列車では多くの外国人観光客を見かけ、「インバウンド効果」を実感しました。飛騨・高山の魅力が世界的に注目されていることを誇らしく感じる一方で、「自分の知っている高山の魅力に、ついに世界が気付いてしまったか」と、少し悔しい気持ちもありましたね。

—— 高山の冬についていかがですか。

署長 昔も今も寒さは厳しく堪えますね。宿舎の風呂は相変わらず寒いです。以前の勤務時代、同僚の宿舎で水道管が凍結し、風呂釜

が壊れてしまったことがありました。当時はまだ新庁舎に移転する前で、JR高山線の踏切を越え、雪をかき分けながら旧庁舎へ通っていたことを思い出します。今はずいぶん通勤が楽になりました。

—— 飛騨の地酒はいかがですか。

署長 以前の勤務時代にも、いくつかの酒蔵を回らせてもらい、大変楽しませてもらいましたが、今回の赴任では、各蔵元の特徴や味の違い、歴史や経営の背景なども学びながら、より深く知識として吸収するようにしています。酒類業の監督官庁という立場でもありますので、ただお酒を楽しむだけでなく、職務の一環として向き合っています。そういった意味では、私もこの飛騨の地酒には格別の思い入れがありますね。

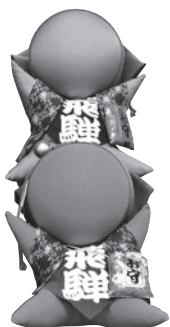
高山の地酒は、私好みの辛口で、すっきりとした後味のものが多いですね。これこそ、高山勤務の「醍醐味」だと感じています。

—— だいぶお酒がお好きですね。

署長 酒好きを自負しておりますが、誰かに訊かれたら「飲めなくはないです」とお答えします(笑)。

—— 趣味についても教えてください。

署長 音楽を聴くことが好きです。特に「DREAMS COME TRUE」の吉田美和さんが大好きです。



平成14年7月、レインボーホール(現・日本ガイシホール)での初めてライブで聴いた時のことを、今でも鮮明に覚えています。途中で機材トラブルが発生し、照明も音響も止まってしまった中、吉田美和さんが「未来予想図Ⅱ」をアカペラで歌ったんです。その歌声



に心を打たれ、当時は歌詞も知らないのに自然と涙があふれました。それ以来ずっとファンで、通勤時や疲れた時など、常に歌声に触れていますが、仕事で自分を奮い立たせる時には「AGAIN」(2014年3月発表、通算52枚目シングル)という曲をよく聴いています。自分への応援歌ですね。

—— 座右の銘を教えてください。

署長 座右の銘といえる程のものではありませんが、大事にしている言葉としては、「整理整頓」と「一期一会」です。

「整理整頓」とは、単に物を片付けることではなく、「整理」は不要なものを捨てること、「整頓」は残すものを最適に配置することだと考えています。思考や仕事においても同じで、不要なものを排除し、効率的な判断を心がけています。

また、「一期一会」は、税務大学校で茶道部の部長を務めていた際に学びました。裏千家の師範から教わった「一生に一度の出会い」という言葉を胸に、出会った人や経験を大切にしています。もっとも、当時は部費で好きなお茶菓子を買う「部長特権」も少し魅力でしたが(笑)。

—— 今後の税の方向性について教えてください。

署長 「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という税務当局の使命を的確に果たしていくため、皆様から信頼される税務行政を推進していく必要があると考えています。

また、前任の国税局企画課長時代に「税務行政のDX(デジタル・トランスフォーメーション)」について旗振り役として推進していましたが、関係上、特に思い入れを強くしている部分ですが、「あらゆる納税手続が税務署に行かずにできる社会の実現」を目指し、e-Taxをはじめとしたデジタルプラットフォームの構築などにより、簡単・便利に効率的で誤りのない申告・納税の実現を目指しつつ、税務を起点とした経済取引から会計税務までを一気通貫で行うことによる利便性・効率性などの向上や経営の高度化を進めていくことに、職員一丸となって貢献させていただきたいと考えています。

—— 最後に、法人会の会員に向けて一言お願いします。

署長 飛驒法人会の皆様には、長年にわたり税務行政に対するご支援とご協力をいただいております。特に日本の将来を担う子供たちに、



税の役割や日本の現状を知り・考える機会を与える活動を積極的に展開していただいております。中でも小・中学校の児童・生徒に対する「租税教室」や「絵はがきコンクール」等の租税教育などの税知識の普及に寄与する活動につきましては、長年にわたり精力的に取り組んでいただいております。これらの活動に対し、心より感謝申し上げます。

—— 本日はお忙しいところ、いろいろお話を聴かせていただきありがとうございました。



令和7年度 合同納税表彰式

令和7年11月13日(木)に、令和7年度合同納税表彰式が挙行されました。

本年も、法人会の活動を通じて多数の皆様が受賞されましたので、その栄誉をたたえ、ここにご紹介します。

永年のご功績に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。



財 務 大 臣 表 彰

(公社)飛驒法人会 顧問
洲 岬 孝雄 さん

名古屋国税局長表彰

(公社)飛驒法人会 副会長
滝 康 洋 さん

高山税務署長表彰

(公社)飛驒法人会 常任理事
島 秀太郎 さん

(公社)飛驒法人会 副会長
渡 邊 久 憲 さん

※五十音順にて紹介させていただいております。



飛驒税務推進協議会長表彰

(公社)飛驒法人会 理事
大 原 誠 さん

(公社)飛驒法人会 理事
高 橋 厚 生 さん

(公社)飛驒法人会 監事
三 野 島 徹 さん

※五十音順にて紹介させていただいております。



令和8年 新春
午年生まれ

今年の抱負

(順不同)



今年の抱負

(株)イバタインテリア

井 端 勇 介
(古川支部)

早いもので入社して26年目になります。経過と共に自分の立場も変化していき皆を引っ張っていかなければならない立ち位置にいます。

今年は「改革の年」と位置づけ、業務の効率化や企業文化の向上に力を入れていきます。特に、木製家具業界の変化に柔軟に対応し、製品と働き方の改革を進めていく所存です。

また、私自身、48歳という年齢を迎え、健康管理の重要性を改めて感じています。仕事に集中するためには心身の健康が欠かせません。昨年は地域の役の関係もあり多くのスポーツ行事に参加し体を動かす事の楽しさと大切さを改めて実感しました。具体的には決めておりませんが無理なく継続して楽しめるスポーツを始めようと考えております。より健康に配慮した生活を心がけ、持続可能な形で成長できるよう努めます。

地域との連携を深め、地元経済の発展にも貢献できるよう尽力してまいります。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



新年を迎えて

神岡商工会議所

吉 田 和 佳 子
(神岡支部)

今年が何回目かの年女となったことに、気持ちを新たにしています。

高校卒業後、数十年、長く離れていた故郷・神岡町に子供とともに戻ってきたのが3年前。若い頃はこの小さな町が窮屈で退屈に感じていましたが、子育てというステージとなった現在では、のびのびと過ごせ安心できる場所だなあとしみじみと感じています。

休日には子供とともに地域の行事に参加するのが楽しみで、中でも、春に種となる大豆を植え、草むしりをし、秋には待望の大豆を収穫。冬にその大豆を煮て、その煮豆を潰し塩や米こうじを加えて味噌を作ります。1年間かけて大豆から手前味噌を作る事業です。食物を作り育てるこ

と、それを加工する先人の知恵、口にするものの大切さなど、ひとつひとつの作業に大きな学びがあります。これからも、地域と積極的に関わり、子供の心身の成長とともに地域貢献ができればと考えています。

令和8年が皆様にとって良い年になることをお祈りいたします。



新年を迎えて

(株)水口土建

水 口 靖 之
(高山南支部)

年男として節目の年を迎えるにあたり、改めて時間が過ぎる速さを実感しております。

弊社は創業60有余年、地域の皆様に支えられながら建設業を営んでおります。

取り巻く環境は物価高騰や人手不足、予期せぬ自然災害など多くの課題に直面しており将来に不安を感じながら毎日を過ごしています。建設業界では様々な問題解決のためにAIの導入や建設機械の自動化による生産性の向上、働き方改革の推進や若手技術者・女性労働者の積極的な採用など業界全体として課題解決に取り組んでいます。

これまで多くの困難や災難を乗り越えてきた飛騨人魂で、弊社も時代の変化に柔軟に対応しこれからの試練をチャンスに変える努力を続けてまいります。「経営は人こそすべて」という理念を軸に、これまで支えてくださった方々、これから出会うすべての方々とつながりを大切に、真に信頼され必要とされる会社、そしてそんな人間であり続けることを目標に頑張っていきたいと思っております。



年男を迎えて

(株)タナカ技建

田 中 直 樹
(高山支部)

本年で4回目の年男を迎えました。

私は27年前に会社に入社し土木の仕事で現場作業で10年し、5年間管理職を経て35歳の時に代表取締役になりました。

建設業は社会情勢に常に左右される職種です。高度成長期はインフラ整備に重点を置いていたため、公共事業もたくさんあり忙しい毎日でした。その後公共事業の見直しがあり単価は下がる、仕事量は減るのダブルパンチで、わが社も売り上げが下がり、先を考えなければいけない時代へと変わりました。そのような時代になり、わたしは民間工事を取り入れる仕事にシフトチェンジしていく中、一番うれしかったのは、お客様と直接仕事をさせていただく中で、感謝の気持ちが直接伝わることの素晴らしさに気づきました。

世界情勢はいつの時代もめまぐるしく猛スピードで変わります。そのような世の中でわが社が目指すものを今一度しっかりと考え、馬のように突き進んでいきたいと思っています。

わが社も創業50年を迎えます。100年企業を目指し感謝の気持ちを日々忘れることなく頑張っていきたいと思っています。

年齢も50歳に近づき体力も衰えてきました。体調管理も大事なことだと思うようになりました。次の年男の時を健康で、今よりも良い会社であることを期待して頑張っていきたいと思っています。

令和8年が皆様にとって良い年になりますよう祈念申し上げます。



新年を迎えて

金山土木(株)

安江 誠
(金山支部)

午年ということで気がつけば3回目の年男を迎えました。私がここまで歩んでこられたのも、現場で必死に頑張る社員、事務職、また私に関わってくださった多くの方々、お客様、そして何よりも家族のおかげです。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

弊社は昭和46年に金山土木協業組合として創業し、昭和52年に廣瀬が代表理事に就任しました。昨年の10月に金山土木株式会社に商号変更を行い、廣瀬は会長となり私が代表取締役社長に就任いたしました。

現在、物価高騰や人材不足など様々な課題があり、私たちの事業にも影響があり大変厳しい状況になっていますが、そこを乗り越えなければなりません。

社名と代表の変更を転機とし社長として若いと言われるので、若い力で技術力だけではなく柔軟に変化へ対応する力が、この先の時代を乗り越えていくのに必要だと思っています。そのためには更に地元の方々、お客様の信頼を高めて行き「従業員は宝」を座右の銘としこの先も推進していきたいと思っています。

今後とも引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



還暦を迎え

(有)下呂特産加工

北野 勝広
(下呂支部)

午年、それも丙午生まれの還暦を迎えるにあたり振り返ればあつという間の60年でした。24歳で下呂に戻り家業である有限会社下呂特産加工に入社して36年、家族始め、社員の皆様、地域の皆様、お取引先にお大変支えていただき今日を迎えることが出来たと感謝申し上げます。

弊社はこんにやく、トマトジュースを始め社名の通り地域の特産品を商いとさせていただいております。この間を振り返りますと様々な出来事が思い出されますが、それぞれの困難を何とか乗り切ってきたことが出来ました。これも偏に個人や会社に関わってくださった皆様のお陰であることを肝に銘じ今後の人生を歩んでいきたいと思っています。

60歳といえば世間でいえば定年退職の年でもあり、人生最大の節目となる大切な年です。個人的にはまだまだやり残したことが沢山ありますので、あと10年70歳までは現役として頑張っていきたいと思っています。

今後とも今まで以上にご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。皆様にとって新年が素晴らしい飛躍の年でありますように。



新年を迎えて

日産工業(株)

島 秀太郎
(下呂北支部)

今年の干支は丙午。早いもので還暦を迎える年となりました。

今から60年前、高度経済成長期の真っ只中であつた1966年、根拠のない迷信や諸説の流布により前年度よりも約46万人少ない出生数となった特異な年に生まれました。

出生数が減少している現在、2026年が60年前と同じ干支が原因で出生数が減少することが無いことを祈っています。

グローバル化が進む今日、諸外国の様々な影響は避けられませんが、次の時代を担う子供や孫たちが夢をもって成長できる社会になる事に期待し、自分ができる責任を果たしていかなければいけないと感じています。

建設業に携わる関係から、ますます社会資本整備が進み、今ある社会インフラを適切に維持管理することで、地域の皆様が安心して暮らすことができ、地域産業が活性化していくような公共・民間投資を形にしていく仕事にやりがいと誇りを持ちながら、健康に留意して一生懸命務めていきたいと思っています。

本年が皆様にとりまして飛躍の年になりますことをご祈念申し上げます。

休憩室

『地域とともに歩む挑戦の物語』

NPO法人 飛騨高山ハンドボールクラブ 理事長
飛騨高山ブラックブルズ 岐阜代表

山越 雄一郎

飛騨高山ブラックブルズ岐阜

— 地域とともに歩む挑戦の物語 —

飛騨高山ブラックブルズ岐阜は、岐阜県高山市を拠点に活動するハンドボールクラブです。

2013年の創設以来、私たちは「スポーツで人生を豊かに故郷に活力を」を理念に掲げ、トップリーグでの挑戦を続けてきました。

クラブの歩みは決して平坦ではありませんでしたが、地域の皆さまの温かい応援と支えがあったからこそ、困難を乗り越え、前進を続けることができました。

地域に根ざした活動

飛騨高山ブラックブルズ岐阜は単なるスポーツクラブではなく、地域社会の一員としての責任を果たす存在です。

高山市との包括連携協定を通じて、学校でのスポーツ教室や青少年交流イベントを積極的に開催し、未来を担う子どもたちにハンドボールの魅力を伝えています。子どもたちがボールを追いかける笑顔は、選手たちにとっても大きな励みとなり、地域にスポーツ文化を根付かせる原動力になっていきたいと思っています。

また、地域イベントへの参加や住民との交流を通じて、「応援される存在」から「共に歩む仲間」へと進化していけたらと思っています。

選手たちは試合だけでなく、日常の場面でも地域の皆さまと触れ合い、スポーツを通じた絆を広げています。



新シーズンへの挑戦

2025-2026シーズンを迎えるにあたり、選手たちは「勝ち点20を目標に全力で戦う」と力強く宣言しました。伊藤寿浩ヘッドコーチの指導のもと、昨季終盤には3連勝を収めるなど着実に力をつけており、キャプテンを中心にチームの結束は一層強まり、練習に励んでおります。

勝利はもちろん大切ですが、それ以上に「最後まで諦めない姿勢」を示すことが、地域の子供たちやファンに勇気を与えると信じています。

試合での、勝ち負けを超えた“感動”をお届けいたします。



みんなでつくるクラブ

飛騨高山ブラックブルズ岐阜は、地域の皆様、スポンサー企業の方々、そして全国のファンの皆様の支えによって成り立っています。試合の応援だけでなく、クラブ運営へのご協力やイベントの参加など、一人ひとりの力がチームの成長を支えています。

試合での勝利の喜びも、敗戦の悔しさも、すべてを分かち合うことで、クラブと地域は一層強い絆で結ばれていきます。応援してくださる皆さま一人ひとりが、飛騨高山ブラックブルズ岐阜の大切な仲間です。

地域の誇りとして

飛騨高山ブラックブルズ岐阜は、地域の誇りとして挑戦を続けます。スポーツを通じて人と人をつなぎ、未来を切り拓く力を育むことが



私たちの使命です。選手たちの汗と努力は、地域の希望となり、子どもたちの夢を育む土壌となります。

皆さまの温かい応援が、選手たちの力となり、クラブの未来を照らします。ぜひ会場に足を運び、熱い声援をお届けください。飛騨高山ブラックブルズ岐阜は、地域とともに歩み、挑戦を続けます。

最後に

飛騨高山ブラックブルズ岐阜は、ハンドボールを通じて“地域を元気に”“地域に感動を”与えられる存在になれるよう挑戦してまいります。

これからも変わらぬご支援・ご声援をどうぞよろしくお願いいたします。飛騨高山ブラックブルズ岐阜はこれからも走り続けます。



事業所訪問

細江土建株式会社

概

要

代 表 者：代表取締役 細江 和彦
所 在 地：下呂市小坂町坂下292番地
創 業：昭和55年(1980年)
事業内容：土木工事業、とび・土工工事業、
水道施設工事業など
従業員数：9名

対

談

ききて 今回は、一般土木工事を中心に、御嶽山の登山工事など山岳地帯の特殊な現場も手掛けている細江土建株式会社を訪問し、細江社長にお話を伺います。

まず、御社の事業内容について教えてください。

社 長 父親でもある先代が昭和55年に有限会社細江土建を興してから今年で46期を迎えました。

私自身は平成元年に先代に呼び戻されるような形で実家へ戻り、家業を継ぐべく細江土建に入社しました。

岐阜県・下呂市発注の公共工事が主な業ではありますが、(株)シーテック様発注の水力発電関係の工事や民間外構工事なども受注しております。

公共工事の中でも御嶽山飛驒頂上での工事や濁河温泉からの御嶽山登山道工事を長年にわたり受注、施工させていただいております。



細江社長

ききて 御嶽山での山小屋工事や登山道工事には、どのような作業や苦労があるのでしょうか？

例えば、重機が入らないなどの苦労もあるかと思いますが。

社 長 御嶽山関連で特に印象に残っている工事は、平成30年豪雨災害後の飛驒頂上五の池小屋テラス復旧工事です。

併用して登山道にもなっている五の池小屋の正面玄関から1mもない場所から既設の石積が崩壊してしまい、年内に復旧しないと小屋本体が傾倒する懸念がありました。

当然、大きな重機は搬入できません。2t級のミニバックホウを分割してのヘリコプター運搬での搬入搬出を余儀なくされました。

崩壊した石積の材料を再利用してコンクリートで固める工法も検討しましたが、生コンクリートをヘリコプターで運搬すると、振動による材料分離に加えて、ヘリコプターの下へ吹き付ける風(ダウンウォッシュといいます)の作用で水分が吹き飛ばされてしまい、コンクリートの性能が大幅に低減するといった問題がありました。

代替案として丸太を井桁に組み、中空をグリ石で充填するといった工法を提案させていただき、発注者でもある下呂市や市議会など沢山の方々のご尽力により約8,500万円の事業費をかけて、年度内に見事完成できた際は涙が出ました。

自分にとっても大変思い入れのある工事のひとつですね。

ききて 人の力で山を守るには、社長をはじめ従業員のチームワークや技術があつてのことと思います。



平成30年度 五の池小屋石積災害復旧工事



すが、御嶽山の急斜面での作業の苦労話などをお聞かせください。

社 長 御嶽山噴火から11年が経過しました。水蒸気爆発であっても大惨事となるその圧倒的なパワーを目の当たりにすると、災害復旧などで私達がどんなに頑丈(にしたつもり)な構築物を建造したとしても、自然の脅威には敵わないと痛感します。

自然に逆らわず、その景観や性質などを活かした工法を検討し施工することが自然との共生といった観点からも重要なのではないかと思います。

弊社社員たちも御嶽山関連の工事に気概を感じて頑張ってくれており、大変心強く思います。

ききて 山の工事とは離れるのですが、一般土木工事において災害時など地域との関わりで意識されていることはありますか?また、どのようなことで協力が出来ていますか?

社 長 前出の平成30年もそうでしたが、令和2年～3年にも大変大規模な豪雨被害に見舞われたのは記憶に新しいですね。

日が経つごとに市内町内各地で被害箇所が明らかになり、優先度や難易度に応じた対処などを

岐阜県・下呂市職員の方々と下呂建設業協会小坂支部にて協議して迅速な復旧に努めました。

災害復旧をはじめ我々が施工する工事などは、地域住民の方々のご協力が不可欠です。

日頃より地域とのコミュニケーションや様々な地域活動への積極的な参加を心掛けています。

ききて なるほど、地域とのコミュニケーションや、地元の子供達への社会教育など大変素晴らしい活動をされていますね。

それでは、今後の事業への展望などがあればお聞かせください。

社 長 私事で恐縮ですが、体力維持のため?趣味と実益を兼ねた登山やロードバイクに加えて、ニホンミツバチ飼育や原木マイタケの栽培など多趣味でして(笑)

ここでは詳しく言えませんが、今後は農業に関する事業も手掛けていきたいと考えています。

なお、細江土建株式会社のトピックスは、知人である若いクリエイター達が作成してくれた弊社HPをご覧いただけると幸いです。まだ作成中なのですけど…

URL <https://hosoedoken.com/>

ききて 御嶽山の登山道整備など、普段の生活では見ることのない現場に、人の手と技術が注がれていることを知りました。「山を守る」という志を持って働く皆さんの姿勢や、社会への貢献事業に感銘を受けました。

地域への安全と安心を支える細江土建株式会社の今後のご活躍を楽しみにしております。

(ききて 西本)





金山支部 幻想的にゆらめく「飛騨街道 竹あかり」が開催されました

昨年11月15日に下呂市金山町金山の旧飛騨街道を使って、「竹あかり」のイベントが金山町観光協会とE-ne金山の共催で行われました。

辺りがほの暗くなった午後5時から点灯式が行われ、道路と駐車場に設置した約1,000本の竹の中のろうそくに、ライターを手にした大勢のボランティアスタッフが手分けして一斉に点火していきました。

飛騨街道の路地の両側に立てた竹に入れたろうそくに火が灯ると、様々な模様を開けた竹の穴から洩れるほのかな光が、幻想的



児童が作った竹あかり

にゆらぐさまに心が癒される思いでした。この竹の一部は、金山小学校と金山こども園の児童がワークショップで作成したものもあり、自分が作ったものを見つけるのも楽しかったようです。

見に来た人からは、「雨で2回延期したけれど開催してもらえてよかったです。竹の細かい細工と暗がりでのあかりがきれいでしたね。」といった感想が聞かれました。

このイベントが好評でしたので、次回開催をいつにするのか主催者を悩ませるところです。

(河合 記)

下呂北支部 おいでよ! 飛騨萩原「上呂うまいもん街道」

萩原町上呂地区においては、飲食店をはじめ萩原町や飛騨各地域の特産品等を販売している小売店が立ち並んでおり、マスコミ等にも取り上げられ多くの観光客が来店している店舗もあります。コロナ感染症の影響も落ち着き、国道41号線を通過する観光客等の車両も多く見られる中、こういった良い立地を活かし当地域の話題を発信するため、萩原町商工会と飛騨萩原観光協会により、当地域の飲食店・小売店を紹介した「飛騨萩原 上呂うまいもん街道」パンフレットを作成しました。



国道沿いに設置したのぼり旗

パンフレットでは、店舗の位置と外観写真にあわせ、各店舗の自慢の料理やPR商品の写真を掲載し、とてもわかりやすく魅力あるパンフレットとなっています。さらに店舗前には国道を通過するお客様にもわかるよう「飛騨萩原 上呂うまいもん街道」ののぼり旗も設置。

この事業により、美味しい料理・お酒と下呂・飛騨地域の魅力ある商品をまごころ込めて提供しているお店に多くのお客様が立ち寄っていただくとともに、地域経済の活性化と下呂市の魅力と話題の発信につながっていくことを期待しています。

(桂川 記)



下呂支部 「下呂温泉 日本舞踊子ども教室」お披露目会の開催!!

かつて昭和47年頃の下呂温泉には約150名の芸妓が在籍し、昭和57年には芸妓置屋が44軒を数えるなど、芸妓文化は「下呂温泉の華・下呂温泉の文化」として地域の観光や文化を彩る大切な存在でした。しかし現在では芸妓は2名にまで減少、下呂市でも芸妓文化の継承を目的とした地域おこし協力隊の募集など様々な取り組みが行われております。

そのような中、昨年の秋に（一社）下呂温泉観光協会主催による「芸妓の世界展」が開催され、全盛期の貴重な写真展示をはじめ、現役の芸妓さんと一緒に楽しめるお座敷遊びや日本舞踊体験など、芸妓の世界を身近に感じられるイベントを開催いたしました。特に注目を集めたのは「芸妓さんなりきり体験」で、市内美容室のご協力により小中学生が本格的な芸妓姿に変身する体験を通じて、芸妓のなり手だけでなく装いを整える技術者の存在も文化継承に欠かせない重要な要素であることが再認識されました。



普段なかなか触れることの少ない芸妓文化を、楽しみながら学べる貴重な機会となったイベントをきっかけに「下呂温泉 日本舞踊子ども教室」が行われ、全8回の練習を積んだ17名の小中学生によるお披露目会が下呂交流会館アクティブにおいて今月17日（土）に開催されます。子どもたちによる日本舞踊の発表をぜひ多くの皆様にご覧いただき、未来へとつながる芸妓文化へのご理解とご支援をお願いいたします。（千田 記）

古川支部 飛騨古川 冬の風物詩「三寺まいり」

浄土真宗の宗祖・親鸞聖人の御遺徳を偲び、古川町市街地の三つのお寺に人々が詣でたことが「三寺まいり」の始まりといわれています。この行事は飛騨古川に200年以上伝わる伝統行事で、令和7年には約8,000人もの人々が訪れました。

明治・大正時代には、野麦峠を越えて長野県の製糸工場に働きに出た女性たちが帰省し、着飾って巡拝しました。その様子は「嫁を見立ての三寺まいり」として飛騨古川の小唄にも歌われ、若い男女の出会いの場ともなりました。

そのため、現在では「縁結びのおまいり」として知られ、毎年1月15日の夜には、着物姿の女性たちが恋愛成就を祈りながらおまいりをする、飛騨古川の冬の風物詩となっています。三寺をつなぐ道には、高さ約2メートルの雪像ろうそくが並び、瀬戸川では千本ろうそくの灯りがゆらめきます。恋愛成就を願う灯籠も流され幻想的な雰囲気に包まれます。



千本ろうそくには白と赤の二色があり、恋愛成就を願う際には白いろろうそくを灯し、その願いが叶うと翌年には赤いろろうそくを灯するという慣わしがあります。赤いろろうそくの数だけ幸せが生まれたことを感じられる、心温まる伝統行事です。（山下 記）



「令和8年度 税制改正に関する提言」の要望活動

公平で健全な税制の実現を目指して、会員企業の意見や要望を反映しながら税のあるべき姿や将来像を見据えて提言活動を行っております。今年は飛騨地区4自治体の首長、市村議会議長に「令和8年度税制改正に関する提言」を要望しました。

12月1日(月) 要望先 成原 茂 白川市長、森崎 敏克 同議会議長
(要望者 滝村 尚人 専務理事)

12月1日(月) 要望先 田中 明 高山市長、伊東 寿充 同議会議長
(要望者 山本 善隆 会長、田中 由泰 税制委員長、林 誠 高山支部長)

12月3日(水) 要望先 山内 登 下呂市長、中島 達也 同議会議長
(要望者 千田 友倫 税制委員、今井 美佐子 税制委員)

12月4日(木) 要望先 都竹 淳也 飛騨市長、澤 史朗 同議会議長
(要望者 村坂 壽紀 税制委員、蒲 敦子 税制委員)



新設法人税務研修会を開催

と き：令和7年11月18日(火) ところ：高山合同庁舎会議室

新たに設立した法人に、正しい申告と納税をしていただくため、研修会を開催しました。

当日は6法人の参加があり、高山税務署の法人課税第一部門統括国税調査官 安本隆太郎氏が講師となり、法人税、消費税、印紙税等々わかりやすく説明していただきました。



第44回 岐阜県下法人会女性部会連絡協議会開催

と き：令和7年10月8日(水) ところ：都ホテル岐阜長良川

第44回岐阜県下法人会女性部会連絡協議会が、名古屋国税局課税第二部法人課税課長 伊藤久氏、岐阜北税務署署長 山本久美子氏他多数のご来賓をお招きし大垣法人会女性部会が主管で開催されました。

当飛驒法人会女性部会からは6名の会員が参加し、「時代にあった女性部会を作るため 今できること」をメインテーマに参加者が10グループに分かれ、グループディスカッションで活発な意見交換がおこなわれました。

協議会終了後の講演会では、音楽療法士でバイオリニストの濱島秀行氏より「在宅医療における音楽療法」～奏でられるヴァイオリンの音色とともに～と題し、貴重なお話しの合間に素敵なおヴァイオリンの調べを楽しませていただきました。

来年度は(一社)中津川法人会女性部会が主管となって開催される予定です。



足立女連協会長の挨拶



グループディスカッションの様子

第48回 岐阜県下法人会青年部会連絡協議会開催

と き：令和7年10月10日(金) ところ：虎溪山 永保寺

第48回岐阜県下法人会青年部会連絡協議会が、名古屋国税局課税第二部法人課税課長 伊藤久氏、岐阜北税務署署長 山本久美子氏他多数のご来賓をお招きし開催されました。当日は当青年部会から8名のメンバーが参加しました。

今年のテーマは「健康こそが人・企業・地域の力」～健康経営がもたらす永続的企業経営と地域発展～と題して実施されました。

協議会にて各単位会の活動発表があり、終了後4つのグループに分かれ、座禅体験と庭園見学をしました。貴重な体験と文化的価値のある建物を見学し、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

来年度は(一社)中脳法人会青年部会が主管となり美濃加茂市で開催される予定です。



恩田青連協会長の挨拶



単位会発表の様子

青年部会だより

高山税務署長と語る会

と き：令和7年11月27日(木) ところ：ひだホテルプラザ

飛驒法人会青年部会連絡協議会では、松田淳一高山税務署長を講師に招き「語る会」を開催しました。各支部より19名の参加があり、松田署長から「事業者のデジタル化促進～デジタルインボイスの導入について～」と題して講演をいただきました。

冒頭、始めて参加するメンバーもいることから、自身の出身など自己紹介をしていただき、演題の内容について、税務行政を取り巻く変革などについて詳しい講義をしていただきました。

講演の後、懇談会を開催しメンバーとの交流をしていただく中で「語る会」の目的を有意義に過ごすことができました。



松田税務署長



署長と語る会の様子

第39回 法人会全国青年の集い 山梨大会

と き：令和7年11月20日～21日 ところ：アイメッセ山梨 ほか

第39回法人会全国青年の集い山梨大会が「人は石垣 人は城」～光り輝く未来のために～と題して開催されました。

今年は全国より約1,900名の参加があり、飛驒からは2名が参加しました。

大会での記念講演では株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ代表取締役社長の佐久間悟氏が講師となり「プロヴァンチア(地方クラブ)の挑戦」～フットボールクラブの枠を超えた存在と役割～と題して講演され、プロサッカークラブ ヴァンフォーレ甲府を率いてきた同氏が、運動習慣の普及、青少年や高齢者への健康支援、企業と連携した職場の健康づくりなどについて地域の健康プラットフォームとして果たした役割などについて講演されました。

その後開催された式典では、国税庁課税部長 高橋俊一氏他多数のご来賓をお迎えし租税教育活動プレゼンテーション、健康経営大賞の結果発表、最優秀単位会の事例発表がなされ、中沢大会実行委員長より大会宣言があり、来年開催される島根大会へ大会旗が渡されました。

来年11月には島根県松江市にて開催が予定されています。

女性部会だより

女性部会夏季研修会および 税に関する絵はがきコンクール作品審査

と き：令和7年9月24日(水) ところ：ひのきや(下呂市)

毎年開催している女性部会夏季研修を今年は下呂市小坂町の「ひのきや」にて開催いたしました。研修会では7月に着任された高山税務署署長の松田淳一氏から「事業者のデジタル化促進」と題し松田署長さんのこれまでの税務行政に携わられた経歴などを含めてご講演をいただきました。

研修会に先立ち今年度の「税に関する絵はがきコンクール」の作品審査を実施し、16校より応募のあった368点から入賞作品を選定しました。入賞作品は下記のとおりです。



表彰の様子(金山小学校)



表彰の様子(下呂小学校)

令和7年度 税に関する絵はがきコンクール入賞作品 (すべて6年生)

賞	学 校 名	氏 名
女性部会長賞(県の審査へ)	下 呂 市 立 金 山 小 学 校	山 下 凛 さん
高 山 税 務 署 長 賞	高 山 市 立 東 小 学 校	新 田 翼 さん
飛 驒 法 人 会 長 賞	下 呂 市 立 下 呂 小 学 校	長 坂 季 来 さん
副 部 会 長 賞	高 山 市 立 西 小 学 校	村 本 奈 由 さん
	高 山 市 立 新 宮 小 学 校	道 脇 英 樹 さん
	下 呂 市 立 下 呂 小 学 校	水 野 由 貴 さん
優 秀 賞	高 山 市 立 東 小 学 校	都 竹 鈴 さん
	高 山 市 立 東 小 学 校	溝 尻 夏 鈴 さん
	高 山 市 立 花 里 小 学 校	平 佳 奈 依 さん
	高 山 市 立 久 々 野 小 学 校	森 田 彩 百 里 さん
	下 呂 市 立 金 山 小 学 校	中 島 莉 心 さん
	下 呂 市 立 下 呂 小 学 校	今 井 せ い は さん
	下 呂 市 立 下 呂 小 学 校	松 井 佑 衣 さん
	下 呂 市 立 尾 崎 小 学 校	今 宮 瑚 都 さん
	下 呂 市 立 尾 崎 小 学 校	桂 川 史 輝 さん



死亡保障
高度障がい保障
傷害後遺障がい保障
傷害医療費用保障
傷害休業保障
入院保障

傷害通院保障
疾病入院医療費用保障
疾病入院療養一時金保障
事業継続事業承継相談費用保障
会社役員賠償責任保障

難攻不落

経営者さまを取りまくリスクは一つではありません。
多くのリスクに対応するためにはいくつもの保障が必要です。
重責を担う経営者さまを守る、
数々の安心を一つにまとめた総合保障をぜひお役立てください。

※保障の組み合わせには、所定の制限があります。保障内容について、詳しくは「設計書[契約概要]」
「ご契約のしおり」「約款」を必ずご覧ください。



法人会会員のみなさまに

経営者大型総合保障制度 企業保障プラン 総合型V + 一時金型Mタイプ

(大同生命の定期保険+AIG損保のベーシック傷害保険)

Premium

(大同生命の無配当入院一時金保険)

◎大同生命の商品の正式名称は次のとおりです。

総合型V: 大同生命の無配当満期定期保険(無解約払戻金型) または 大同生命の無配当歳満期定期保険(解約払戻金抑制割合指定型)

Mタイプ: 大同生命の無配当入院一時金保険(無解約払戻金型)

DJIDO 大同生命保険株式会社

岐阜支社/
岐阜県岐阜市吉野町6-16(大同生命・廣瀬ビル4F)
TEL 058-262-5141

AIG AIG損害保険株式会社

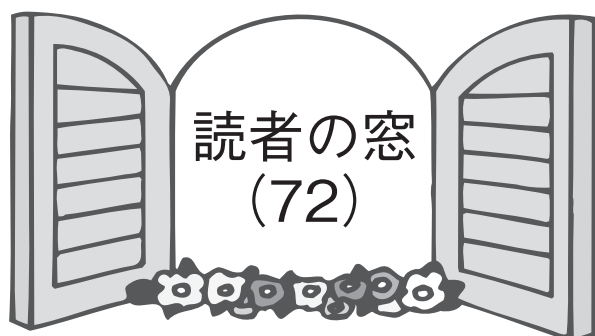
岐阜支店/
岐阜県岐阜市泉町41
TEL 058-262-4771

◎この資料は2023年6月現在の商品内容に基づいて記載しており、将来変更となることがあります。

◎この制度は、法人会の会員のみご加入いただける制度です。ご加入後に法人会を退会された場合は、保険料の引き上げや損害保険部分の解約等のお取扱いとなることがあります。

◎この広告は、保険商品の内容のすべてが記載されているものではありません。ご検討・ご契約にあたっては、「法人向け保険商品のご検討に際してご留意いただきたいこと」「設計書[契約概要]」「注意喚起情報」「ご契約のしおり」「約款」を必ずご覧ください。また、ご不明の点などございましたら、引受保険会社または取扱者にお問い合わせください。

F-2023-0010 (2023年5月19日) 23-073005 2023-05



このコーナーは、読者の皆さんのコーナーです。
税金への色々な主張・ご意見・アイディア・気の利いた写真等を広く会員のみな様より投稿していただきたく、多くの投稿をお待ちしています。
投稿は(公社)飛騨法人会まで、FAX・Eメールにてお願いします。

F A X 0577-33-1093

E-mail hidahojn@siren.ocn.ne.jp

税金について思うこと

高山市 50代 女性

高市早苗首相になって、政治に関心が高まる中、やはり一番の関心は税金の集め方と使い方である。ガソリン税廃止とか消費税減税とかいろいろとあるが、財源は必要なのだから、どんな形でせよ税金は納めなければならない。税金の取り方は、国民にとって最も身近でありながら、最も難しい課題の一つだと思う。まず重要なのは、「公平性」だと思う。ゆえに、高額所得者には社会全体を支える役割として、より多くの税負担をしていただけるとありがたい。

一方で、生活に直結する消費税は、事務の煩雑さを避けるためにも一律の税率で運用すると思う。複数税率は中小事業者に過大な事務負担を強いるうえ、税の透明性を損ねる恐れがある。したがって、徴収の仕組みを簡素化しつつ、所得や資産に応じて負担を調整すると思う。

しかし、本当に重要なのは「税金の使い方」である。限られた財源をどのように配分するかによって、社会の在り方が決まる。無駄な支出を削減し、教育・福祉・環境など将来への投資に重点を置くことで、国民が納得できる税制となるのではないだろうか。

公平な徴収と透明な使途こそ、持続可能な社会の基盤であると思う。

税制改正と事務手続きに思う事

下呂市 50代 男性

近年は大きな税制改正が続いていますが、複雑かつ事業者の事務負担が増加した印象があります。

電子帳簿保存法の改正やインボイス制度創設は、デジタル化の時代にやむを得ない事と思いましたが、給与から控除する源泉所得税の控除不足の繰り越しが続いた定額減税は、煩雑にも関わらず給付金とした方が効果が高いような…。

更に、所得税の「特定親族特別控除」の創設により、特定親族(って何?の世界でもあります)の所得を正確に把握しなければなくなりました。

減税はありがたい事ではありますが、個人情報収集のストレスと相まって、配偶者特別控除と同様の煩雑さが年末調整等に増えるのは残念です。

逆に、下呂市や高山市でスタートした宿泊税はシンプルですし、ガソリン暫定税率廃止は、何の事務負担も無く当地のライフラインの一つとして重要なガソリン単価が下がる改正なので大歓迎で、今後でもできる限り分かりやすくシンプルな税制改正を期待します。

令和7年度 税に関する絵はがきコンクール 入賞作品



(公社)飛騨法人会女性部会長賞
下呂市立金山小学校 6年
山下 凜 さん



高山税務署長賞
高山市立東小学校 6年
新田 翼 さん



(公社)飛騨法人会長賞
下呂市立下呂小学校 6年
長坂 季来 さん

編集 後記

■明けましておめでとうございます。皆様には新年を穏やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

■日本漢字能力検定協会が発表した「2025年 今年の漢字」は「熊」でした。全国各地で「熊」が市街地まで出没し様々な被害がでました。人と自然との共存について考えるきっかけになりました。人と人との共存は、戦争を始めとしてもっと厳しいものがありますが、心配なくて良い世界になればいいと思います。

■昨年のノーベル賞で、日本は「生理学・医学賞」に坂口 志文氏、「化学賞」に北川 進氏のダブル受賞を果たしました。長い間コツコツと研究された結果だと思います。2人の研究結果が今後さらに発展することと、さらに若い研究者がノーベル賞を受賞されることを期待します。

■高山税務署長 松田 淳一氏に恒例の新春よもやま話を伺いました。税の公平性にかかわる仕事をされてみえました。税の根本をよく理解されていると思います。今後も私たちへの御指導をお願いします。(H.S)

法人会
消費税期限内納付
推進運動

令和8年1月 公益社団法人 飛騨法人会 広報委員会

住 宏 夫	長瀬 栄二郎	下 畑 了 三	水 口 邦 博	河 合 正 博	千 田 純 弘
桂 川 卓 也	水 口 靖 之	山 下 真 弘	追 分 英 輔	鍋 島 正 子	富 川 由 希 子
山 下 葉 子					